長田の　町に　ガオー！　―横山光輝―

「うわあっ。かっこええ！」
たろうくんは、わかまつこうえんに　そびえ立つ　大きな　ロボットを　見上げて　思わず声を　あげました。
たくさんの　人たちが　校しゃ　四かいの　高さ　ほども　ある　ロボットと　同じ　ポーズを　とりながら、しゃしんを　とっています。

「どうや、かっこええやろ。」
ロボットを　見上げている　たろうくんに　おじさんが　声を　かけて　きました。
「これはな、てつ人二十八ごう　いうんや。リモコン　そうさで　空を　とんで　わるい　ロボットと　たたかってたんやで。」
「うわあ、すごい。」
「横山光輝さんって　いう、神戸で　生まれた　ゆう名な　人が　かいた　まんがの　お話　やけどな。」
「なんや。おっちゃん　びっくり　させんといてよ。でも、なんで　こんな　でっかい　てつ人を　この　こうえんに　つくったんやろ。」
「はんしん・あわじ大しんさいって　知ってるか。」
「うん。ぼくは　まだ　生まれて　なかったけど、ぼくの　家も、町も　たいへんやったって。」
「そうやねん。でも、　みんなで　力を　あわせて、自分たちの　町を　ふっかつ　させたんやで。もっと　もっと　長田の　町を　元気に　しようと　がんばったんや。どんな　ことにも　まけへんで、長田の　町が　すきやねん　という　思いを　こめて　つくったんや。」
おじさんは　話しながら　てつ人の　ように　げんこつを　高く　つき上げました。
たろうくんは、力強く　話す　おじさんが、てつ人の　ように　かっこよく　思えて　きました。そして　また　てつ人を　見上げました。なんだか　とても　ゆうきが　わいてきました。
「ぼくも、てつ人に　なりたいな。」
「おっ、そうか！たのむで、み来の　てつ人くん。」
おじさんは　うれしそうに　たろうくんの　かたを　ポンと　たたきました。
「ガオー！」
たろうくんも　空に　手を　つき上げて　大きな　声で　さけびました。

本資料の著作権は兵庫県教育委員会に帰属します。
本文のすべてまたは一部について無断で複写して使用することを禁止します。